

平成 21 年 11 月 9 日

幼年童話

宮川健郎

1 「絶滅危惧種」としての幼年童話

- ・「絵本」ではなくて、「幼年童話」

絵が物語を語り、ページをめくっていくことによって展開する絵本と、ことばで語る幼年童話のちがいがい。

- ・絵本の隆盛と、現代児童文学が読者層の上限を上げていくなかで、空洞化する「児童文学」と「幼年童話」。この状況の起源は何か。

佐藤さとる『だれも知らない小さな国』（講談社 1959）と、石井桃子「子どもから学ぶこと」（『母の友』1959 年 12 月）。「近代童話」から「現代児童文学」へ。「現代児童文学」の成立と「声」のわかれ。音読から黙読へ。幼い読者から十代の読者へ、読者層の中心が移動する。書きことばとして緻密化し、長編化していく現代児童文学。

2 「幼年童話」の成立

- ・千葉省三『ワンワンものがたり』（金蘭社 1929）、浜田廣介の童話
- ・〈幼年童話というのは、いつごろから、いわれるようになったのでしょうか。（中略）／童話の、対象読者が、このように、子どもの読解力、または理解力の発達段階別に考えられるようになったのは、昭和期に、はいつてからでした。大正期までの児童文学には、幼年童話という段階的区分は、なかったのです。〉（与田準一「かいせつ」、『日本幼年童話全集』二 河出書房 1954 所収）
- ・メディアが「幼年童話」を作り出す

『コドモノクニ』（1922 年 1 月創刊）、『コドモアサヒ』（1923 年 12 月創刊）などの絵雑誌のカタカナ童話や、ひらがな童話

3 幼年童話の「口誦性」

- ・「ひろすけ童話」の運命

石井桃子他『子どもと文学』（中央公論社 1960、のち、福音館書店）の廣介評価（執筆は松居直）と、鳥越信「迷信を打破るために―幼年童話についてのメモ―」（『日本児童文学』1960 年 3 月）

- ・鳥越信「迷信を打破るために」の幼年童話についての考え方

幼年童話の重要性／幼年童話における物語性やプロットを特に重要視する考え方／

幼年童話の出版形式として、必ず「絵本」という形式が選ばれること

- ・ 浜田廣介に関する関英雄の意見と藤田圭雄の同意（座談会「浜田広介の文学をめぐって」『日本児童文学』1974 年 3 月）

〈あれを読む文章、目で鑑賞する活字文学としてだけ考えるとたしかに持ってまわった文章ですよ。けれどもお話文体といいましょうか、子どもに読んで聞かせる時、あの文章は一概に否定できない。〉（関）話術的文体、口演童話的文体

〈浜田さんは詩人だったと思う。（中略）童謡作家としての浜田広介というものは、相当高く評価されていていい。〉（藤田）

- ・ 〈そこからは、原稿を書くとき、ことばを口に出して歌うような父の声が、ときには、蜂のうなりのように、ときには、突然、かけ声でもかけるように聞こえてくるのだった。〉（浜田留美『父 浜田廣介の生涯』筑摩書房 1983）
- ・ 「原理」や、感情の「原型」を語る童話

4 幼年童話の現代

- ・ 詩的・象徴的なことばで心象風景を描く「近代童話」から、散文的なことばで子どもをめぐる状況を描く「現代児童文学」へ。現代児童文学における幼年「童話」とは？
- ・ 『子どもと文学』における、小川未明「ナンデモ ハイリマス」（『コドモノクニ』1932 年 1 月への批判（執筆はいぬいとみこ）と、散文化する幼年童話。

〈主人公の子どもが、ポケットにはなんでもはいます、という「発見」をしたところから、何か事件がはじまるべきなのです。〉（『子どもと文学』）

いぬいとみこ『ながいながいペンギンの話』（宝文館 1957）、古田足日『ロボット・カミイ』（福音館書店 1970）、『おいしいのぼうけん』（田畑精一と共作 童心社 1974）

- ・ 問題を提起する幼年童話

小沢正『目をさませトラゴロウ』（理論社 1965）、寺村輝夫『ぼくは王さま』（理論社 1961）、神沢利子『くまの子ウーフ』（ポプラ社、1969）

- ・ 幼年童話＝「俳句」説

木村裕一・あべ弘士『あらしのよるに』（講談社 1994）、正道かほる『チカちゃん』（童心社 1994）、長崎夏海『ぴらぴら』（草土文化 1994）

薫くみこ『ちかちゃんのはじめてだらけ』（講談社 1994 のち、日本標準）の非・俳句性

参考 宮川健郎「幼年童話＝「俳句」説」（『日本児童文学』1975 年 7 月）

- ・ あまんきみこ、山下明生の童話性
- ・ 現代児童文学のあり方を「脱臼」させてしまう、いとうひろし『おさる』のシリーズ（講談社 1991～）

5 幼年童話の未来へ

- ・「口誦性」とナンセンス

谷川俊太郎『ことばあそびうた』（福音館書店 1973）、宮沢賢治の童話

内田麟太郎『ふしぎの森のヤーヤー』（金の星社 2004）

- ・幼年童話という、湧き出す「ことばの泉」

松居直『絵本のよろこび』（NHK 出版 2003）

資料

- ① 宮川健郎「近代的な活字的世界 「佐藤さとる コロボックル物語展」を見て」（『しんぶん赤旗』2007 年 9 月 5 日）
- ② 石井桃子他『子どもと文学』（中央公論社 1960）「浜田広介」より